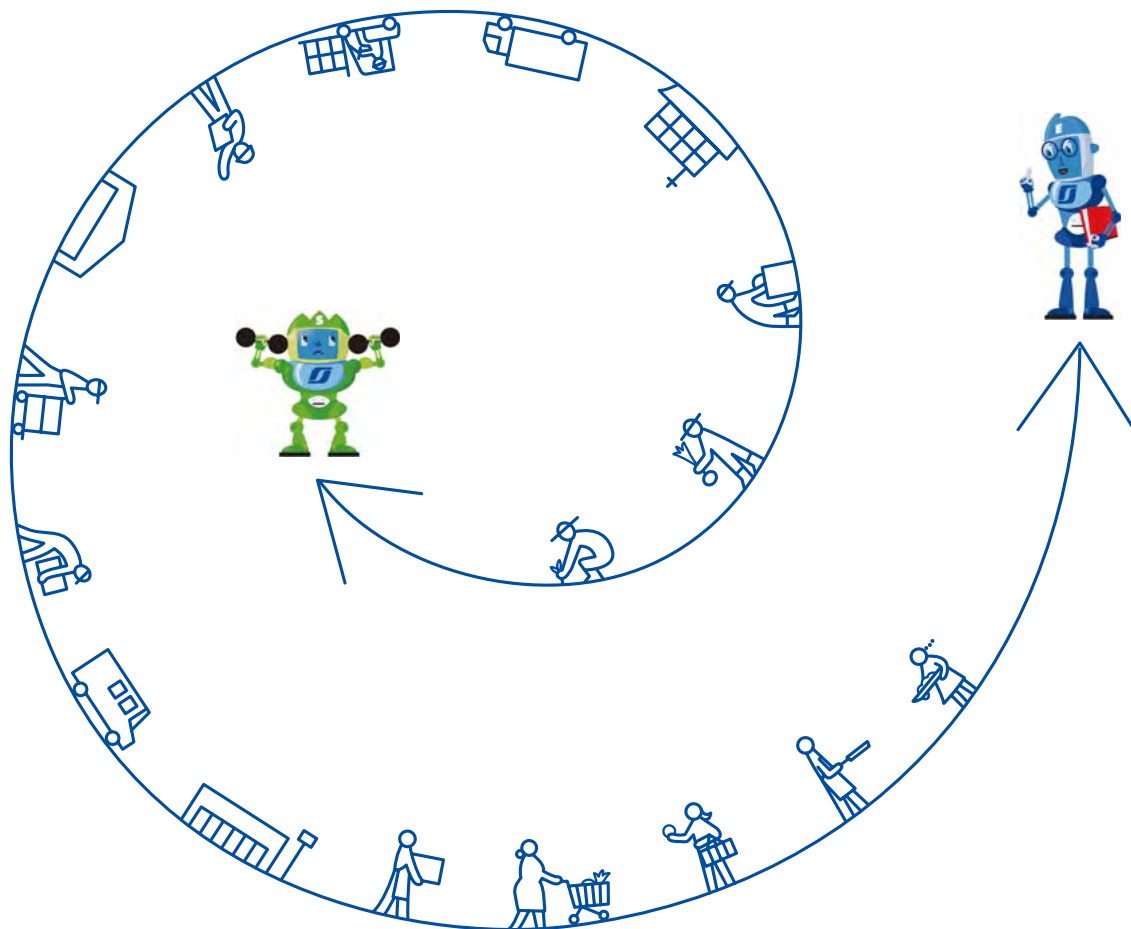


第12期 中間  
株主通信

2008年12月1日—2009年5月31日

イーサポートリンクがめざすこと。





イーサポートリンクは

生鮮青果物のトレーサビリティを確立し、  
生活者の皆様に新鮮で安心な商品をお届けすることに貢献しています。

## CONTENTS

株主の皆様へ	2
「生鮮MDシステム」の導入で生鮮青果物流通はこう変わる!	3
ご質問・疑問にお答えします <生鮮MDシステム編>	5
子会社 株式会社農業支援の取り組み	7
事業内容／セグメント別概況	9
連結財務諸表(要旨)	11
株主広場／企業情報	13

株主の皆様へ

## 3つの事業を柱に事業拡大を目指します



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第12期中間「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

わが国の経済は、前年度から続く国際的な金融市場の混乱の影響を受け、企業収益や設備投資の減少、雇用情勢の悪化、個人消費の冷え込みが続くなど、厳しい状況で推移いたしました。

生鮮青果物流通業界においては、主要卸売市場の青果物卸売数量及び販売価格ともに前年を下回る状況で推移したものの、バナナの輸入量や小売量販店における農産品の販売額は、前年を上回る状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社の2009年11月期第2四半期連結累計期間は、小売・スーパーの商品調達を支援するために開発された「生鮮MDシステム」がいよいよ稼働いたしました。しかしながら、当初計画に対し、システムの導入の遅れが生じた事などにより、売上高は前年同期比約86%、利益面につきましては、コストの削減に努めてまいりましたが、経常損失533百万円を計上いたしました。また、生鮮MDシステムの導入は始まりましたが、当初スケジュールとの乖離の解消は難しいと判断し、通期の連結業績予想の修正を併せて発表いたしました。引き続きコストの削減に努めてまいります。売上高は約20%の減少となり、経常損失704百万円となる見通しでございます。更に、現状の業績に鑑み、中期経営計画を一旦

凍結させて頂きました。中期経営計画の基本方針及び重点施策につきましては今後も継続し、業績回復に向けて邁進する所存です。

2009年1月より生鮮MDシステムが稼働し、本格的に取り組んでおります小売・スーパー向けのビジネスである「調達支援ビジネス」については、2010年11月期以降の事業の柱として、全力で推進してまいります。従来の輸入青果物を中心とした「基幹ビジネス」については、更なるローコスト化に鋭意努力し、安定的な利益の確保に努めてまいります。また子会社の(株)農業支援を中心に展開している「販売支援ビジネス」は、今後の黒字化達成に向けて、体制の整備、販路の確保に努めてまいります。当社を取り巻く環境は、今後も市場環境を含め引き続き厳しい状況が予想されますが、3つのビジネスを中心に、業績向上を目指してまいります。

また今期より、株主の皆様への感謝の意を込めて、優待制度を導入いたしました。今後も業績の向上を最優先課題とし、様々なご期待、ご要望にお応えできるよう努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの事業運営をご理解いただくと共に、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

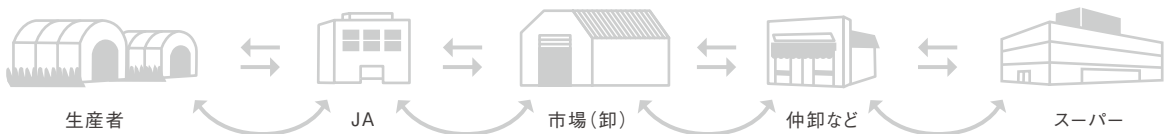
代表取締役社長 堀内 信介



# 「生鮮MDシステム」の導入で 生鮮青果物流通はこう変わる!

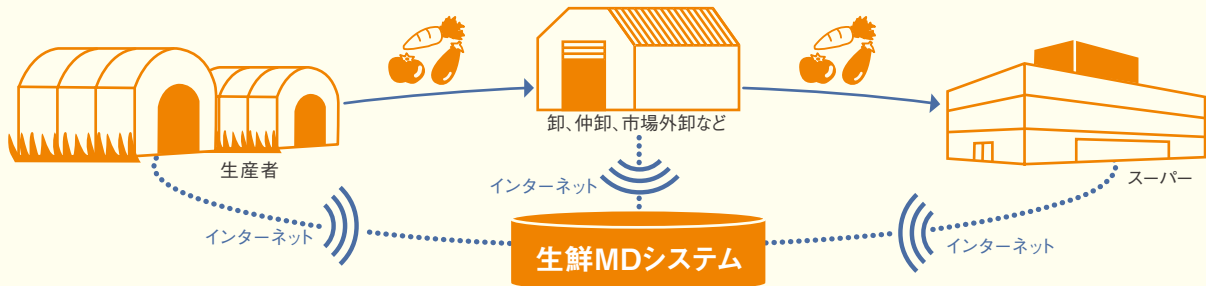
## 一般の生鮮青果物流通は

- 商品は流れていくが、トレーサビリティ(情報追跡)が難しい
- 流通の各段階で異なるシステムを使用し、取引・決済のシステムもバラバラ



## **change** 「生鮮MDシステム」の導入でこう変わる

「生鮮MDシステム」は  
インターネット経由で生鮮流通業界のすべての人とコミュニケーションがとれる流通システム



### 特長

- インターネット環境とパソコンがあれば、誰でも、どこでも利用できる
- 生鮮青果物の流過程で発生するムダな時間とコストを削減
- 商品の売れ残りや欠品などの減少に役立つ

※イサーポートリンクの「生鮮MDシステム」は、経済産業省が推奨する流通BMSに準拠し作られています。

生鮮青果物はサイズや品質が均一でなく、これまでオンラインデータ管理が難しいとされてきました。当社では生鮮青果物流通に精通した強みを活かし、売買に伴う流通上の各データを一括で管理するシステム「生鮮MDシステム」を開発し、本格稼動いたしました。同システムの概要と導入メリットについてご紹介します。



## 「生鮮MDシステム」導入のメリット

### 小売・スーパーのメリット



- 情報がデータベース化されるため、商品調達戦略を組みやすくなる
- 発注情報と納品実績をスピーディに把握することができる
- 商品のトレーサビリティ(情報追跡)が可能になり、より安全で安心なものを店頭に並べることができる

### 中間流通業者(卸／仲卸／市場外卸など)のメリット



- 売買情報をシステム化することにより「伝票レス」が可能になり、伝票代／人件費の削減につながる
- トレーサビリティ(情報追跡)の実現で、商品がいつ・どのように納品されたか明確になる
- 日々の出荷および受領データの照合などの精度が向上するため、事務作業負荷の軽減になる

### 生産者(JA／農業法人／生産組合など)のメリット



- 小売・スーパーと、「直」取引が可能になる
- 計画的な生産の仕組みが作れる
- 商品のトレーサビリティ(情報追跡)の実現で、自分の作ったものがどのルートでどこに売られたのかがわかる



生活者(消費者)の皆様には、“安くて安全な”商品を選べる環境を提供することができます。

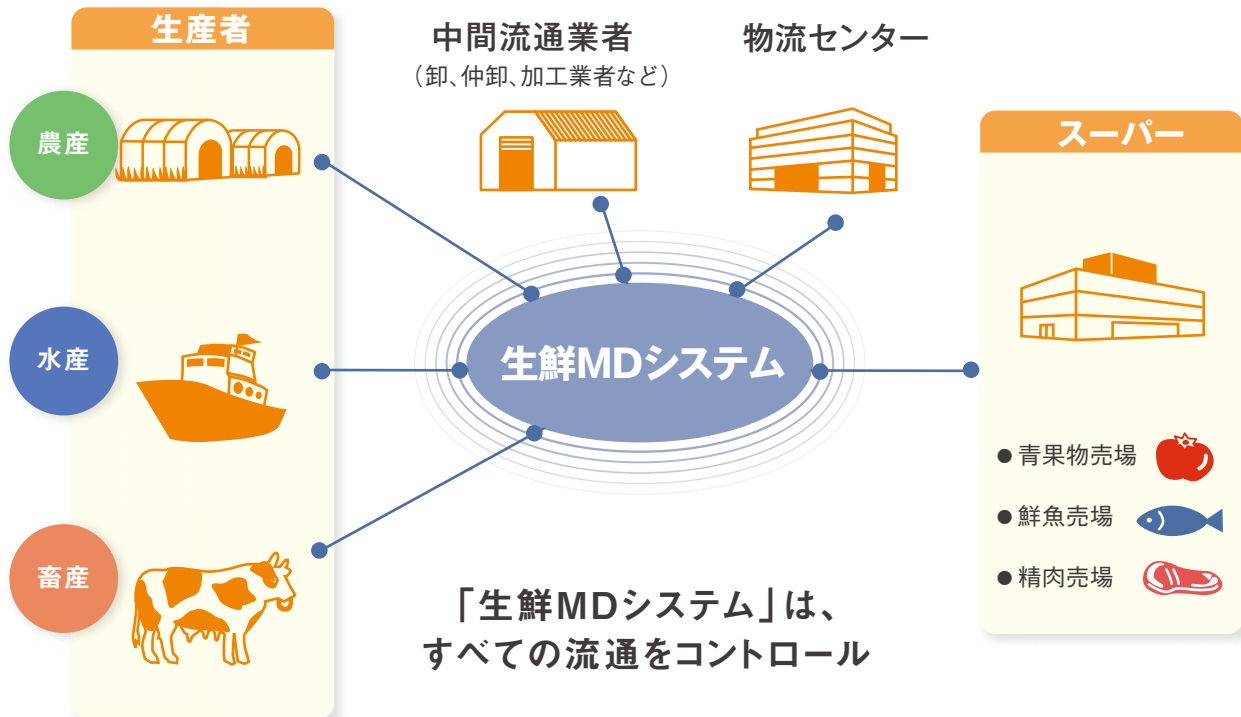


# ご質問・疑問にお答えします <生鮮MDシステム編>

## Q1

「生鮮MDシステム」は、野菜や果物などの青果物だけに対応するシステムなんですか？

**A** 青果物にかぎらず、幅広い商品に対応できるシステムです。当社はすでに、水産（鮮魚）、畜産（精肉）、花卉などもこの「生鮮MDシステム」で対応しており、稼動を始めました。



**Q2**

「生鮮MDシステム」を使う人のために、バックアップサービスなどはありますか？

**A** 「生鮮MDシステム」は、使いやすさや利便性に配慮して設計されたシステムです。短期間の学習によって簡単に使用していただけますが、当社ではシステム担当者が24時間365日のバックアップ体制をとっているため、安心してお使いいただけます。

**Q3**

「生鮮MDシステム」は、システムに慣れていない方には使いにくいのではないですか？

**A** システムに不慣れで使いこなすのが困難な場合や人員・時間の配置が難しい場合には、業務代行サービス（業務受託事業BPO）を行っています。この業務代行サービスは、生鮮青果物流通に携わるすべての方に、ローコストオペレーションを提供できます。導入されたお客様は本業業務に特化でき、必要な時期だけ業務代行サービスを受けることができるため、経費削減にもお役立ただけです。

**Q4**

今まで、「生鮮MDシステム」のようなシステムはなかったんですか？

**A** 小売・スーパーの仕入れ担当者の要望に応える仕組み（システム）が、今までありませんでした。仕入れ担当者は、日々頭を悩ませています。



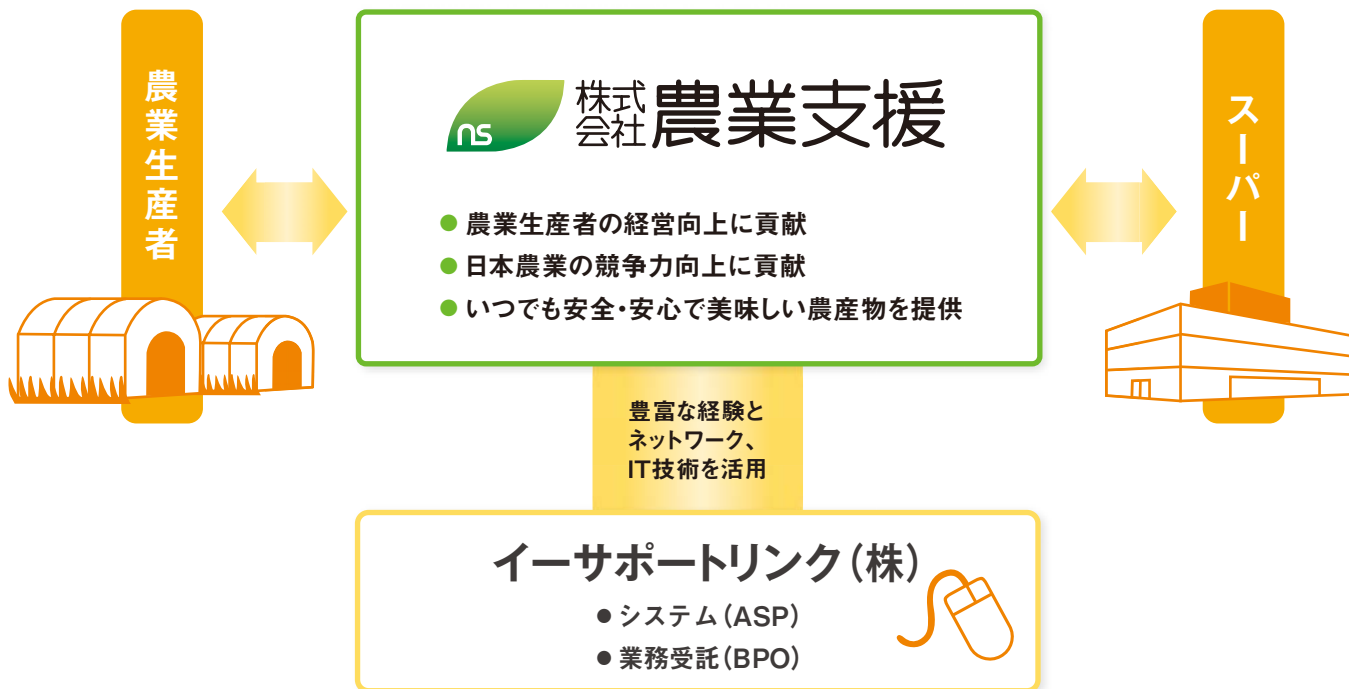
- トレーサビリティを実現し、安全を確保したい
- 仕入れ値を下げたい
- バリエティに富んだ商品を年間をとおして安定供給したい

このシステムは全体を把握することができるので、商品調達戦略を組むことが容易になり、仕入れ担当者の悩みを解決できます。さらには、インターネットツールですので、どこからでも、誰からでも商品を調達することができることから、ある程度固定化されていた「取引先」がこれから自由に広がっていきます。

# 子会社 株式会社農業支援の取り組み

商号: 株式会社農業支援  
所在地: 東京都中央区新富2-14-7

農産物の流通・販売において生産者が主役になる仕組みを創出し、生活者が農産物に求める“本当の価値”の探求と提供をめざしています。



イーサポートリンクは農産物流通のオペレーションのノウハウを活かし、IT技術のみならず豊富な経験とネットワークで、流通に携わるすべての人たちをバックアップいたします!



# —すべては農業生産者と生活者のために—

## りんご事業

りんごの生産・販売において、「安全・安心」の実現、品質の向上、規模拡大、そして農業経営の質の向上の実現をめざしています。そのために、JGAP認証（生産工程管理手法）を取得、もしくは取得の準備をしている生産者と提携しています。

現在、青森県に本拠地を置く「岩木山りんご生産出荷組合」をメインに、りんごの受託販売を行っています。ふじ、つがる、ジョナゴールドをはじめとする計34種類を取り扱っており、100%ストレートりんごジュースの販売も始めました。



## りんごの生産現場から

(株)農業支援が提携している岩木山りんご生産出荷組合の生産者のりんごの木にふくろうの家族が住みはじめ、毎年飛来してきます。ここからおいしいりんごが日々出荷されています。



## マーケティング事業

年間52週の安定供給と「安全・安心」で「おいしい」農産物ブランドの構築をめざしています。需要と供給を調査し、マーケティングを通じて、生産者の販売支援を行い、本当に価値のある農産物の「生産」に特化してもらうための機能を提供していきます。現在は、りんご事業をモデルとして、農産物ブランド構築の取り組みを行っています。

## TOPICS

### 環境保全への取り組み

(株)農業支援とイーサポートリンク(株)は、環境保全への取り組みの一環として、青森県中津軽郡西目屋村にて「第2回ヤマメ放流体験学習」(2009年6月12日実施)を主催しました。世界遺産である白神山地を源流とする岩木川に、地元の小学校4校の児童155名とともに、ヤマメの稚魚約3万5000尾を放流し、自然の大切さを子供たちに伝えました。

主催：フードトラスト協会、(株)農業支援、イーサポートリンク(株)  
共催：西目屋村総務課、西目屋村教育委員会、藤崎町教育委員会

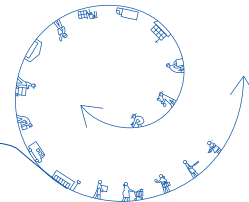


# 事業内容

当社は、「基幹ビジネス」「調達支援ビジネス」「販売支援ビジネス」の3つのビジネスを柱に事業を推進しています。

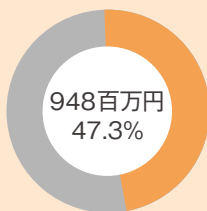


# セグメント別概況



## システム事業

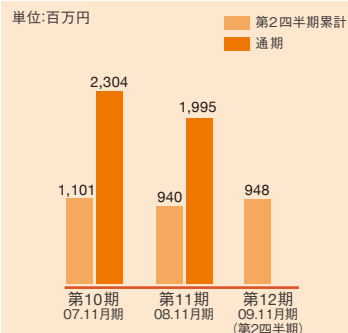
売上高構成比



業況

システム事業におきましては、イーサポートリンクシステムの継続的な安定運用及び各種機能改良を進め、ユーザーの利便性を高めてまいりました。また、生鮮MDシステムの開発及び導入準備を進め、2009年1月からサービスの提供を開始いたしました。しかしながら、生鮮MDシステムの導入に遅れが生じ、当システムの運用コスト等の増加を吸収する顧客獲得及び売上増加までには至らず、営業損失を計上することとなりました。以上の結果、売上高は9億48百万円、営業損失は3億86百万円となりました。

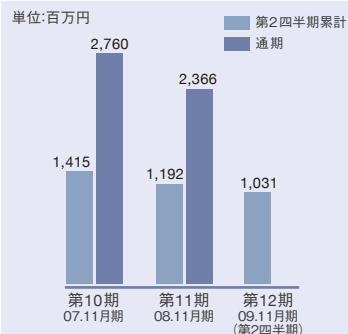
売上高推移



## 業務受託事業

1,031百万円  
51.4%

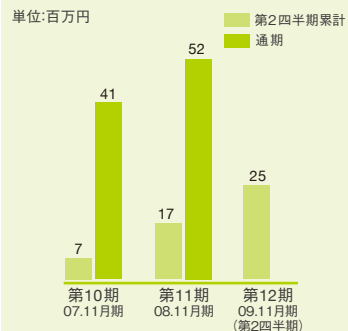
業務受託事業におきましては、当社の主要顧客の商品や売り先の絞込み等の影響を受け、当社の受託作業量が前年同期比で減少いたしました。以上の結果、売上高は10億31百万円、営業利益は2億92百万円となりました。



## その他の事業

25百万円  
1.3%

りんご事業におきましては、生産者との連携強化及び販路の拡大に努めてまいりました。マーケティング事業におきましては、産地・商品開発、販路の拡大に向けた商談会などを行い、事業基盤確立に努めてまいりました。以上の結果、売上高は25百万円、営業損失は1億11百万円となりました。



# 連結財務諸表(要旨)

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第12期 (当第2四半期) 2009年5月31日現在	第11期 (前中間期) 2008年5月31日現在	第11期 (前期) 2008年11月30日現在
<b>資産の部</b>			
①流動資産	1,240	1,467	1,564
②固定資産	3,136	3,308	3,217
有形固定資産	272	319	243
無形固定資産	2,615	2,568	2,709
投資その他の資産	247	420	265
繰延資産	2	1	0
資産合計	4,379	4,777	4,783
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,347	922	1,370
固定負債	498	293	376
負債合計	1,846	1,215	1,746
<b>純資産の部</b>			
株主資本	2,529	3,561	3,037
資本金	2,471	2,471	2,471
資本剰余金	370	1,233	1,233
利益剰余金	△ 312	△ 143	△ 667
評価・換算差額等	△ 0	△ 0	△ 0
少数株主持分	4	—	—
純資産合計	2,533	3,561	3,036
負債純資産合計	4,379	4,777	4,783

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、生鮮MDシステムの導入の遅れが生じたことなどにより、売上高は20億6百万円となりました。

利益面では、売上原価・販売費及び一般管理費の削減を進めてまいりましたが、売上の減少をカバーするには至らず、営業損失5億27百万円、経常損失5億33百万円、四半期純損失5億7百万円となりました。

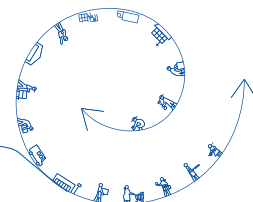
当社グループは、固い顧客基盤に支えられる「基幹ビジネス」に加え、大手量販店とその納入業者を対象とした「調達支援ビジネス」、国産青果物等の生産者・生産者グループを対象とした「販売支援ビジネス」の新たな事業展開に取り組み、企業価値の増大に邁進する所存です。

### Point ①【流動資産】

流動資産の減少の主な要因は、売掛金が47百万円(前期末比12.2%)、農業支援の商品及び仕掛品が増加したことによりたな卸資産が43百万円(同156.3%)増加した一方、現金及び預金が3億23百万円(同37.1%)、減少したことによるものです。

### Point ②【固定資産】

固定資産の減少の主な要因は、ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定の合計が93百万円(前期末比3.5%)減少したことによります。



## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第12期 (当第2四半期累計) 自2008年12月1日 至2009年5月31日	第11期 (前中間期) 自2007年12月1日 至2008年5月31日	第11期 (前期) 自2007年12月1日 至2008年11月30日
③売上高	2,006	2,150	4,414
売上原価	1,815	1,757	3,458
売上総利益	191	392	956
販売費及び一般管理費	718	514	1,166
営業損失(△)	△ 527	△ 121	△ 209
営業外収益	7	3	8
営業外費用	13	10	21
経常損失(△)	△ 533	△ 128	△ 223
特別利益	34	31	31
特別損失	15	16	332
税金等調整前四半期 (中間)純損失(△)	△ 515	△ 114	△ 523
法人税、住民税及び事業税	4	7	13
法人税等調整額	—	△0	108
少数株主損失(△)	△ 12	—	—
四半期(中間)純損失(△)	△ 507	△ 120	△ 645

※当連結会計年度より「四半期連結財務諸表規則」に従い、四半期財務諸表を作成しております。そのため、前中間期の連結貸借対照表、連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書は参考資料となります。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第12期 (当第2四半期累計) 自2008年12月1日 至2009年5月31日	第11期 (前中間期) 自2007年12月1日 至2008年5月31日	第11期 (前期) 自2007年12月1日 至2008年11月30日
④営業活動による キャッシュ・フロー	24	152	300
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 392	△ 334	△ 821
財務活動による キャッシュ・フロー	44	210	655
現金及び現金同等物 の増減額	△ 323	28	133
現金及び現金同等物 の期首残高	872	738	738
現金及び現金同等物 の四半期末(中間期末)残高	548	767	872

### Point ③ 【売上高】

生鮮青果流通業界においては、主要卸売市場の青果物卸売数量及び販売価格ともに前年を下回る状況で推移いたしましたものの、バナナの輸入量や小売量販店における農産品の販売額は、前年を上回る状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、事業基盤強化、顧客満足度向上、システムの安定運用及び機能改良、生産性の向上、新規顧客獲得等に取り組んでまいりました。

### Point ④ 【営業活動によるキャッシュ・フロー】

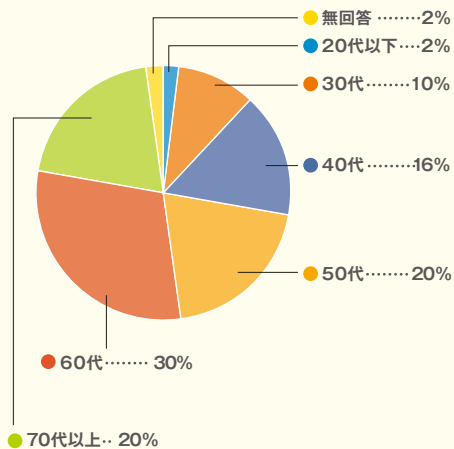
営業活動の結果獲得した資金は24百万円(前年同期間比128百万円の減少)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失を5億15百万円計上したものの、減価償却費を4億5百万円、その他流動負債の純増1億24百万円計上したこと等によるものであります。

## 株主さまアンケート結果報告

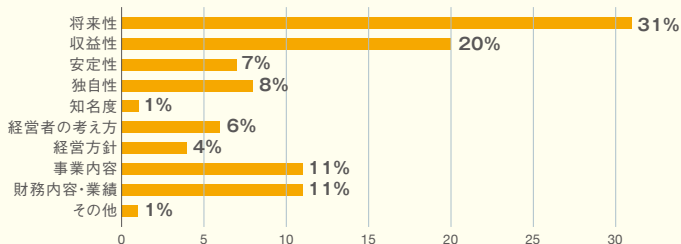
第11期「株主通信」の送付に際して「株主さまアンケート」を同封し、当社の事業や株式に対する意識調査を実施させていただきました。アンケートには**166名**の皆様からご協力をいただき、返信率は**17.8%**で引き続き高い関心をお寄せくださいましたこと、心より御礼申し上げます。

ここにアンケートの結果、ご意見、ご要望等につきましてご報告申し上げます。

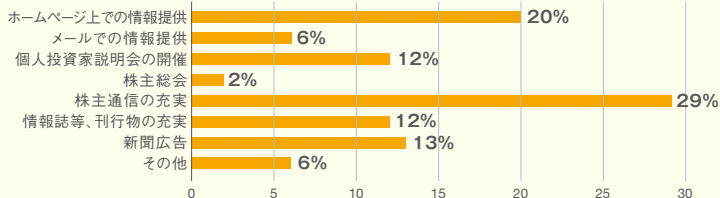
## ■ 年代分布



## ■ 当社株式の方針を決定する際に特に重視するもの(複数回答)



## ■ 当社のIR活動等に充実を求めるもの(複数回答)



## ■ 数多くいただいた株主様からのお声の一部をご紹介します

- ・業績改善に最大限の努力を払い、株価の回復に努めてほしい。
- ・より一層の経営改革に取り組み、業績向上に努めてほしい。
- ・個人投資家への積極的な情報発信を望む。
- ・食の安全・安心が大切なので、貴社の努力に期待している。

当社では、皆様からの貴重なご意見を今後の経営やIR活動に反映させるべく努め、企業価値の向上に取り組んでまいります。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。(なお、「株主さまアンケート」は期末にのみ実施させていただく予定です。)



## 「株主優待」を始めました!

毎年5月31日現在の株主名簿に記載または記録された1株以上保有の株主様を対象とします。

青森県産りんごの  
100%ストレートジュース

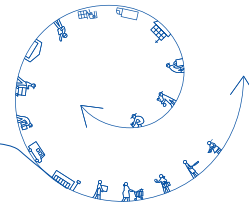
- ・1株～9株 1リットル × 6本
- ・10株以上 1リットル × 12本



お味はいかがでしたか?



# 企業情報 (2009年5月31日現在)



## 会社概要

商号	イーサポートリンク株式会社 (英文商号 E-SUPPORTLINK, Ltd.)
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立	1998年10月6日
資本金	2,471百万円
従業員数	283名(連結) 271名(個別)

## 株式の状況

発行可能株式総数	107,000株
発行済株式総数	29,097株

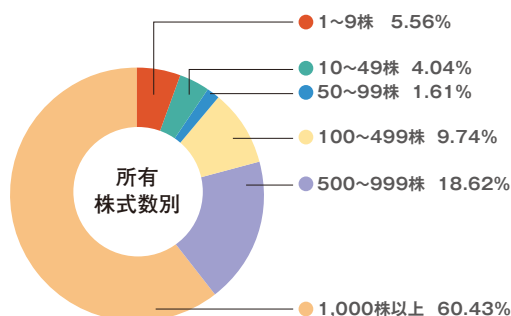
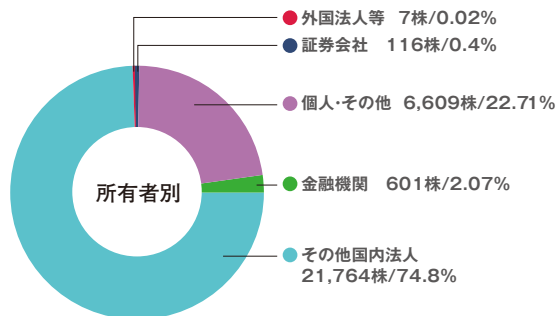
## 役員

代表取締役社長	堀内 信介
取締役	藤本 操
取締役	仲村 淳
取締役	伊藤 史雄
取締役	森田 和彦
取締役	後藤 幸男
常勤監査役	伊藤 日出夫
監査役	佐藤 智之
監査役	吉田 茂

## 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	4,333	14.89
フレッシュMDホールディングス株式会社	2,589	8.89
全日本ライン株式会社	1,956	6.72
伊藤忠商事株式会社	1,883	6.47
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	1,883	6.47
株式会上組	1,667	5.72
東洋埠頭株式会社	1,111	3.81
オリックス株式会社	1,111	3.81
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	1,050	3.60
ファルコン投資事業組合	978	3.36

## 株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
定時株主総会	毎年2月下旬
単元株式数	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座を お持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社 になります	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

**公告方法** 電子公告(当社ホームページ)  
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告  
による公告をすることができない場合には、  
日本経済新聞に掲載して行います。

- 株主様のご住所・お名前等に使用する文字に関してのご案内  
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、  
株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定し  
ていない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、  
その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカ  
ナに変換して、株主名簿に記録いたしております。  
このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが  
指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承  
ください。  
株主様のご住所・お名前等として記録されている文字につ  
いては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。  
なお、特別口座にて管理させていただいております株主様  
には、平成21年2月に「特別口座開設のご案内」をお送りし  
ており、そのご案内の中のご注意事項で使用文字の制限  
についてご案内しております。

当社ホームページでも  
IR情報をご覧いただけます。

<http://www.e-supportlink.com/>

当社では、『株主通信』ではお伝えしきれない情報を、  
ホームページにて開示しています。株主・投資家の  
皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報  
など、タイムリーな情報提供を心がけています。ぜひ、  
ご覧ください。



トップページ

最新のIR情報を随時更新し、  
ご紹介しています。

当社社長のメッセージを、  
動画にて配信しています。

**E-supportlink株式会社**

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号  
TEL: 03-5979-0666 FAX: 03-5979-0667



この冊子は環境保全のため、大豆油インキとFSC認証紙を使用しています。